

1984～1985年の札幌市における インフルエンザの流行について

Epidemiological Studies on Influenza in Sapporo, 1984～1985

吉田 靖宏 熊谷 泰光 鈴木 欣哉 塚田 正和
青木 襄 富所 謙吉 高杉 信男

Yasuhiro Yoshida, Yasumitsu Kumagai, Kinya Suzuki,
Masayori Tsukada, Minoru Aoki, Kenkichi Tomidokoro
and Nobuo Takasugi.

1 緒 言

今季のインフルエンザ様疾患の集団発生は、前季の1984年1月～2月のインフルエンザA(H₁N₁)型の流行が終焉した直後の4月中旬から6月中旬にわたりインフルエンザB型の流行があり、冬季にはいり1985年1月～3月まで再びインフルエンザB型の全国的な大流行となった。

2 方 法

2-1 ウイルス分離

患者のうがい液を、ふ化鶏卵(9日目)、MDCK細胞に接種し、33℃で培養した。

必要に応じてHEL, HEP 2, Vero, Helaの各細胞も使用した。

また、ウイルス同定には、日本インフルエンザセンター分与のフェレット抗血清を使用した。

2-2 血清学的検査

使用した抗原は、日本インフルエンザセンター分与のものを使用した。

赤血球凝集抑制(HI)試験はマイクロタイター法で行った。

3 結 果

3-1 インフルエンザB型の1984年4月～6月の流行

1984年4月から6月にかけて、札幌市内の一中学校でインフルエンザ様疾患の集団発生があり、その間市内全域にわたり、中学校を中心とした集団発生が多発し、5月の連休明けから爆発的流行となった^{1) 2)}。

3-2 インフルエンザB型の1985年1月～3月の流行

1985年1月25日、札幌市内の2小学校で、冬季に於けるインフルエンザ様疾患の集団発生の初発があった。2小学校の各1学級で学級閉鎖が実施され、3月までに、市内208施設に於て休校1、学年閉鎖4、学級閉鎖203、患者数11,360名に及ぶ大流行となり、教育現場へ多大な影響をもたらした。

全国的にみても、インフルエンザB型が流行し、総患者数105万人となり、1981～1982年インフルエンザA香港型とインフルエンザB型が流行した際の総患者数169万人に次ぐ、過去5年間中最大級の流行であった³⁾。

3-3 ウイルス分離及び血清学的試験

1985年1月、冬季初発の札幌市内の2小学校の患者うがい液13検体から、9株のインフルエンザB型ウイルスをMDCK細胞により分離した(表1)。

血清学的検査の結果、11名に明らかな、インフルエンザB型の抗体価の上昇がみられた。しかも、

患者の回復期血清の抗体価は、13名中10名が4096倍以上であり、抗体価の上昇が極めて高かった。

また1983~1984年のAソ連型の流行の影響からか、A/Bangkok/10/83に対する抗体価が高い者が多く、1024倍以上の高い抗体価を有する者が13名中7名であった。

表1 1985年1月のインフルエンザウイルスの分離及び血清学的試験

No.	分離ウイルス	HI 抗体価					
		A/Bangkok/10/83		A/philippine/2/82		B/singapore/22/79	
1	B 型	-1)	2048 ²⁾	-1)	2048 ²⁾	-1)	≥4096 ²⁾
2	不検出	512	512	128	128	256	≥4096
3	B 型	2048	2048	512	512	2048	≥4096
4	B 型	1024	1024	512	512	256	2048
5	B 型	1024	1024	256	256	512	≥4096
6	B 型	32	32	128	128	32	≥4096
7	B 型	<16	<16	128	128	64	≥4096
8	B 型	1024	1024	128	128	256	≥4096
9	B 型	2048	2048	2048	2048	128	≥4096
10	不検出	64	64	128	128	<16	1024
11	不検出	≥4096	≥4096	2048	2048	128	≥4096
12	不検出	<16	<16	512	512	≥4096	≥4096
13	B 型	128	128	256	256	64	2048

1) 急性期血清 2) 回復期血清

4 まとめ

1983年~1984年のインフルエンザA(H₁N₁)型の流行が終焉直後の1984年4月から6月にかけてインフルエンザB型の流行があった。

冬季にはいり、1985年1月からインフルエンザB型が流行し、全国的規模になった。

1984年~1985年インフルエンザB型の流行は、インフルエンザ流行の前駆波現象に似た形態をとっていた。

また今季インフルエンザB型の流行の特徴は、

回復期血清の、ワクチン株B/singapore/222/79に対する抗体価上昇が非常に高いことである。

5 文 献

- 1) 国立予防衛生研究所、厚生省保健医療局感染症対策課：病原微生物検出情報 第54号(1984)
- 2) 札幌市衛生研究所年報 第11号 130~133 (1984)
- 3) 厚生省保健医療局感染症対策課：インフルエンザ様疾患発生報告 第14報(1985)